POP.COM

ミニバンキャンパー　ポップ・コン

架装部取扱説明書

キャンピングカー広島

この度は、弊社オリジナルキャンピングカー『POP.COM（ポップ・コン）』をお買い求め頂きまして誠に有難うございます。

『ポップ・コン』は、ニッサン　NV200 バネットバンを架装のベース車に使用し、ルーフ部分を開口補強の後ポップアップ式ルーフを取り付け、キャンピングカーとしての設備を配した車両でございます。

日常の走行時はコンパクトな車体でありながら、キャンプ・休息時にはルーフをポップアップして車室高を拡張させ、快適な空間を実現させることが出来ます。

オリジナルルーフのデザインも違和感のないスタイルで、普段でもお洒落にお乗りいただきながら、よりアクティブにお使いいただける様工夫いたしました。

本書は『ポップ・コン』の架装部分の取扱説明書でございます。

ご使用の前に本書を充分にお読み頂き、快適で安全な『キャンプ・くるま旅』をお楽しみください。

また、本書を『ポップ・コン』とともに常に携行・活用されまして、末永くご愛用下されば幸いです。

尚、本取扱説明書中⚠「警告」とありますのは、取扱いを誤ると人身に重大な危険が及ぶ可能性がある事項について、「注意」とあるのは、取扱を誤ると物的事故または人身事故に及ぶ可能性の事項について、下線部は取扱上の注意事項についてそれぞれ言及しています。ご使用に際しましては相応の注意を持ってお取扱をお願いします。

本書と異なった取扱方法に起因する事故・故障・破損等に対しましては、修理交換の保証対象となりませんので、充分なご配慮をお願いします。

取扱説明書目次

① ユーザの皆様へ ・・・・・・ P3～P4

② ポップアップルーフの操作について
(A) 開く時 ・・・・・・・・ P 5
(B) 閉じる時 ・・・・・・・・ P 6
(C) テント部の窓の開閉について ・・・・・・・・ P 7

③ ダウンギャレーシステムの取扱いについて
(A) ギャレーのアップダウンと固定方法 ・・・・・・・・ P 8
(B) 折畳み式カセットコンロ台について ・・・・・・・・ P 9
(C) 水の使用方法について ・・・・・・・・ P10
(D) 清水タンクについて
(E) 排水タンクについて ・・・・・・・ P11

④ 設備用電気関係の使用方法
(A) 設備用電源について（標準仕様車の場合） ・・・・・・ P12
(A-1) DC12V ソケットコンセント
(A-2) サブバッテリー＋走行充電システム ・・・・・・・ P13
(A-3) 設備の電装配電部について ・・・・・・ P14
(B) 外部 AC100V 入力コンセントと室内コンセント ・・・・ P15
(C) 外部 AC100V からの充電システム（オプション） ・・・ P16
(D) ＦＦヒーターについて （オプション）

⑤ リヤ座席の取扱について ・・・・・・・ P17
(A) 走行時
(B) 休憩時

⑥ ベッド展開の手順について
(A) アンダーベッド（一段ベッド） ・・・・・・ P18～19
(B) ルーフベッド （二段ベッド） ・・・・・・・・・ P20

⑦ その他
(A) ダイネットテーブル ・・・・・・・ P21
電気配線図 ・・・・・・・ P22
保 証 書 ・・・・・・・ P23

① ユーザーの皆様へ

⚠ 「警告」⇒■ご使用になる前に必ずお読みください。

★ 架装ベース車両に関する取扱は、必ずベース車両に付属の取扱説明書をご覧ください。

★ 取付されている各機器や装備品をご使用の際には、本書以外にも個々の取扱説明書を充分にお読み頂き、取扱に誤りのございません様にお願いします。

★ 車両や設備をご使用になる場合には、走行前・使用前の点検を必ず実施して下さい。

★ 車内外には、お子様だけで操作しますと思わぬケガ等の事態を招く装備・設備もございます。使用に当っては、お子様だけでの操作はさせない様にご注意とご配慮をお願いします。

★ 走行距離に関係なく、定期的な点検（車体&設備）を実施してください。

★ 走行時には乗車定員席に着座し、必ずシートベルトを装着してください。
ご注意の上、安全速度でご走行下さい。

★ 走行中ベッドの使用は禁止されています。

★ 走行中は、危険ですので座席を離れて流し台などの設備の使用はしないでください。

★ 本車両の電気配線の改造・増設等の行為は、車両火災等を招く原因となり大変危険ですので、絶対に行わないで下さい。
増設等に際しましては、必ず製造元か販売店にご相談ください。

★ 就寝時には酸欠の危険がありますので、換気の為必ず窓を少し開けてお休みください。

★ 車室内に燃焼式の暖房器具を持ち込んでの使用は、酸欠やガス中毒の危険がありますので絶対にお止めください。

★ 就寝時には車両エンジンを停止してください。
有害な排気ガスが車内に流入する危険があります。

★ 走行時には、ポップアップルーフを確実にベルト固縛させて、決してロック解除を意図的に行わないでください。
また、ポップアップルーフ展開時に、強い風・雨等を感じる様になった場合、早めに格納・ベルト固縛をしてください。

★ 走行前には、車内の各収納庫扉のロックやテーブルの格納・マットの固縛等を確認のうえ走行して下さい。

★ 車両及び設備を使用中に異常を感じた時は直ちに使用を中止し、点検・整備等の対策を講じて下さい。使用を続けると被害が拡大する恐れがあります。

② ポップアップルーフの操作について

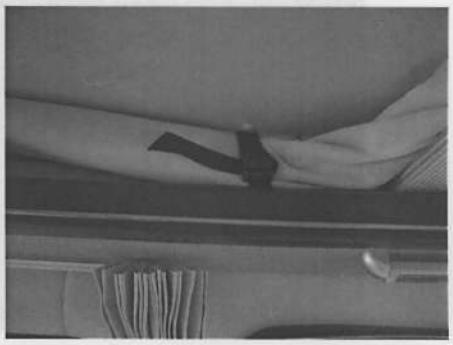
【ポップアップルーフの開閉はすべて手動で行います】

ルーフの開閉をスムースに行うため、車のドア又は窓を１か所以上開けて以下の作業をしてください。

（A） 開く時⇒下の天井部写真も参照ください。

１．天井部左右にあるバックル付きベルトのロックを外します。

ロック用ベルト



２．天井中央にあるグリップを掴み、ルーフ天井を持ち上げます。

（操作の際には、操作の邪魔にならない様、周りを片づけてから行ってください）

ポップアップルーフの展開が完了します。⇒⇒⇒

⚠ ポップアップルーフは必ず上げきった状態でご使用ください。中途半端な位置で使用されていますと風の影響等で自然にルーフが降下し危険な事態を招く恐れがあります。

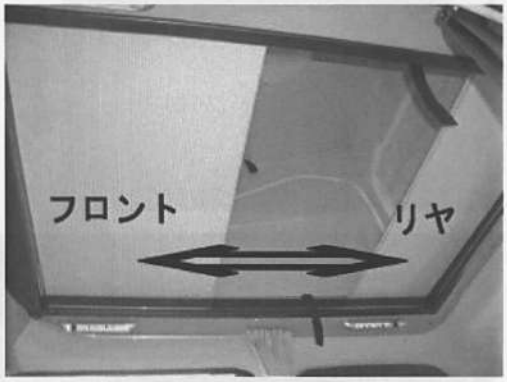
持ち上げ初動時に重量感を感じますが、１５～３０ｃｍ持ち上げたところからはダンパーの力により、ほぼ自動的にルーフは上がって行き、ダンパーが伸びきった状態で止まります。

(B) 閉じる時　⇒　下の写真も参照ください。

1．ルーフを閉じるためにベッド用補助マットの整理をします。

二段ベッドマットを２枚重ねにして、後側をそろえて並べます。

次に、幅の狭い二段ベッドマット１枚を一番後ろに移動させ、元の位置へ、アンダーベッドのセカンドシート横拡張マットを収納して、ルーフを閉じる準備完了になります。（下の写真）



（下から天井二段ベッドマット方向を見る）

（上から二段ベッド前方向を見る）

2.ルーフの閉じ方とロック

ルーフのグリップを掴み、ゆっくりと引き下ろします。

その時、ルーフの取手から手を離しても反発・反応しない位置になったところで停めて、周りのテントを室内に引き込み、片手をルーフに添え、再びゆっくりと引き降ろしてルーフを閉じます。

さらに、左右のベルトをバックルに掛けて、しっかりグリップ&ロックさせて下さい。

（グリップを掴み引き下ろします）

（テントを室内に引き込みます）

（左右のバックルにしっかり固定）

「注意」⇒後方のテントが車外にはみ出さない様に、特に注意しながら室内側に引き込んで下さい。

（開閉の際には、ルーフがスムースに操作できる様、窓かドアを開けておいてから操作をされる事をおすすめ致します。）

「参考」⇒テントは、必ずファスナーを閉めた状態でルーフを閉めてください。テントシートが重なり合い、完全に閉まらない場合があります。

(C) テント部の窓の開閉について

ルーフテントには、室内の換気用として３か所に設けてあります。また、開閉のできるファスナーにはそれぞれ２個のファスナーランナーが取り付けてあります。

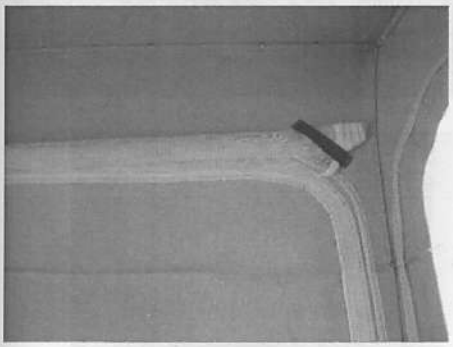
１．　左右の窓

テント左右にあるファスナーを開けてメッシュシート　　にして、換気用窓とします。

（メッシュシートの開閉は出来ません。）

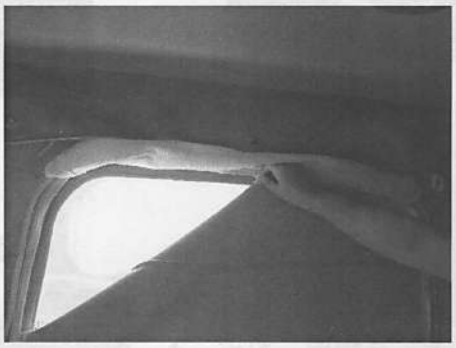
２．後部の窓

内側にメッシュシートがありますので、メッシュシートのファスナーを開けて、テントシートのファスナーを開けると、窓を開放させることができます。　メッシュシートを閉めると網戸として使用できます。

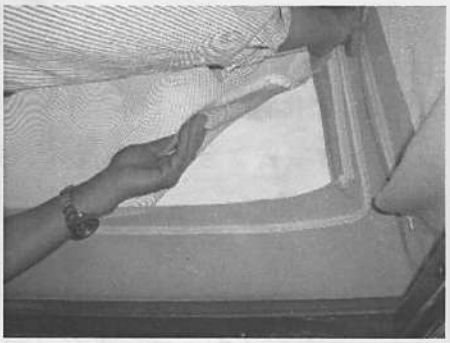


１．メッシュシートを開ける

（巻上げてベルトに留めることが出来ます）



２．テントシートを開ける



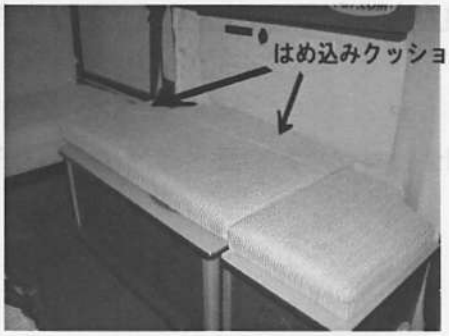
３．メッシュシートを閉める

「参考」⇒テントは、必ずファスナーを閉めた状態でルーフを閉めてください。テントシートが重なり合い、完全に閉まらない場合があります。

③ ダウンギャレーシステムの取扱いについて

「注意」⇒ ギャレー設備のご使用は、ギャレーシステムをアップ固定した後、ご使用ください。

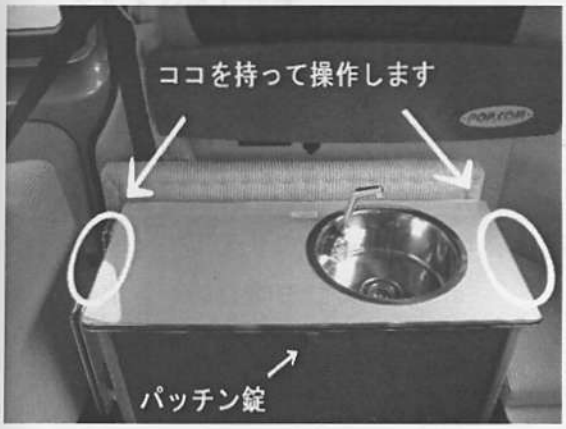
(A) ギャレー（流し台）のアップダウンと固定方法



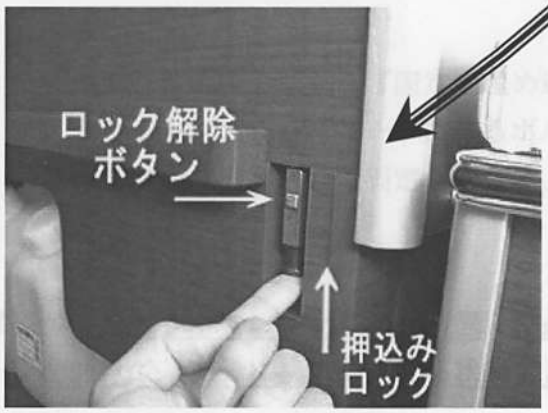
1． はめ込みクッションを取り外します。

2．マットを跳ね上げて開きます。

ギャレーをアップダウンさせる際には、必ずカウンター手前の『パッチン錠』がロックされている事を確認の上で、操作してください。



3．カウンター両サイドを持ち上げて前に押し出す様にスライドさせて安定させます。



4．次に、固定ラッチを押し込み、ロックします。
ロックすると前後左右にずれなくなります。

以上でセット完了です。

⚠「警告」⇒ ■危険です！ギャレーをご使用の際には必ずロックさせてください。

⚠「警告」⇒ ■危険です！ギャレーアップダウンの操作は、お子様だけでの操作はさせない様にご注意とご配慮をお願いします。

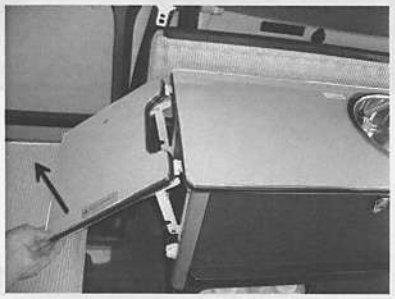
5．ギャレーを下げる場合は、ラッチの『ロック解除ボタン』を押して、アップ・固定させる逆パターンで操作してください。

(B) 折畳み式カセットコンロ台について

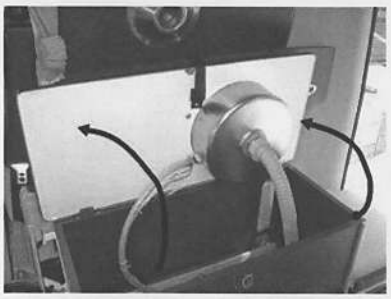
⚠「警告」⇒ **■大変危険です！　走行中に、この設備の使用は絶対に行わないでください。**

「注意」⇒ **セカンドシートを後向き状態にし、ギャレーをアップ固定させてから、次の操作を行ってください。**

1．ギャレー左側の折畳み式コンロ台を跳ね上げます。



2．ギャレーのカウンタートップのパッチン錠を解除し、カウンターを開いて、内部にあるカセットコンロのベルトを外します。



3．ギャレー下よりカセットコンロを引出し、折畳みコンロ台に移動させます。

4．折畳みコンロ台の上にある『固定用埋め込みナット』に、カセットコンロのプレートにあるボルト穴を合わせ付属の『つまみボルト』で固定させます。

「注意」⇒ **カセットコンロをご使用の際には必ず、換気窓を開けて、充分に換気が行える状態でご使用ください。**

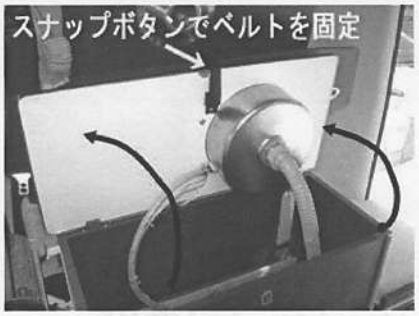
(C) 水の使用方法について

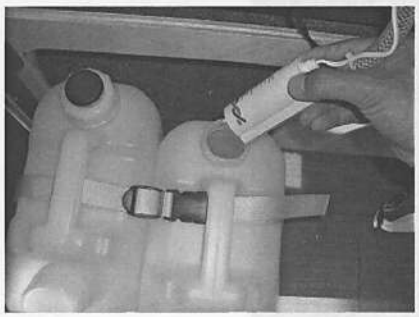
1．清水は電動ポンプにて蛇口に供給します。
蛇口は、上下首振り機能付きになっていますので、
お好みの蛇口の高さに調整してご使用ください。

2．蛇口にはポンプ用ダイヤルスイッチが取り付けられています。
右回しでスイッチが入りポンプが作動、蛇口より清水
が出ます。
使用後必ず、スイッチを左回ししてポンプの作動を
確実に停止してください。

「注意」　⇒　**電動式ポンプの空転は、ポンプの破損を招きますのでご注意ください！**

(D) 清水タンクについて（容量：5ﾘｯﾄﾙ×2本）





☆　タンクは流し台の中にベルト固定されています。

☆　ギャレーをアップ固定させてから、カウンタートップを開いて作業を行ってください。

☆　**使用直前にタンクへ水を入れ、ご使用ください。**
走行中にポリタンクの口から水が流れ出す場合があります。
（ポンプは清水タンク内に漬け込むインナータイプです）

☆　走行中はタンクにキャップをし、固定用ベルトにて確実に固定してください。

「注意」　⇒（電動式ポンプの空転は、ポンプの破損を招きますのでご注意ください！）

(E) 排水タンクについて（容量：１２ﾘｯﾄﾙ）

☆ 車体後部右床下にFRP製の排水タンクが装備されています。

☆ 排水するには、車体右後部より床下にある『排水レバー』を引くと、地面方向に汚水は排水されます。

☆ 排水させた後は、必ずレバーを元の位置に押し戻しておいてください。

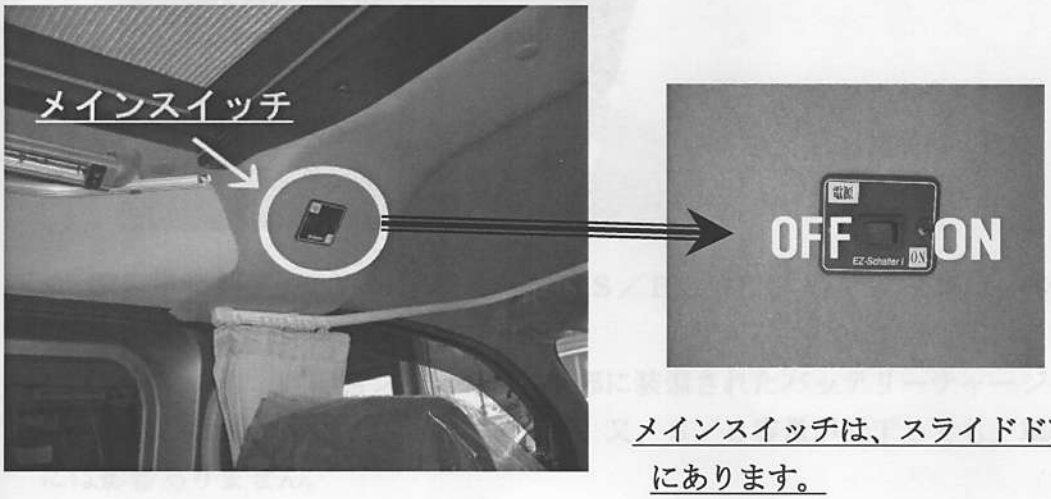
『注意』⇒ 汚水は垂れ流ししないでください！
必ず直接の排水が可能なところで排水させるか、
一旦容器に流し取り、汚水を処理してください。

④ 設備用電気関係について

（A）設備用電源について（標準仕様車の場合）

☆ポップ・コン　標準車の設備用電源は、サブバッテリーを利用しています。
メインスイッチを ON にしなければ各電装機器は作動しません。

（オプションの FF ヒーターは除く）



メインスイッチは、スライドドア前部ピラー上部にあります。

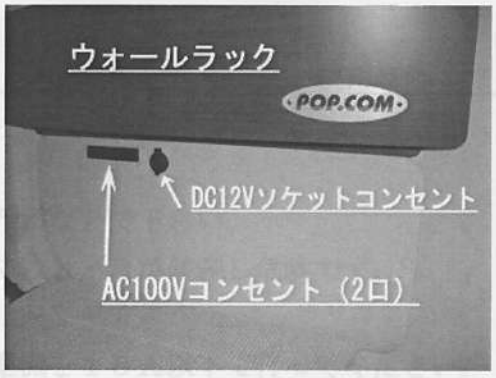
◎標準仕様車の架装部の電装機器は下記の４点です。

- ポップアップルーフ天井 LED 照明　（LED 照明　×１）　⇒　スイッチは本体
- ウォーターポンプ　（ｲﾝﾅｰﾀｲﾌﾟ　２A）　⇒　スイッチは蛇口
- サイド照明（スポットタイプ）　（LED 照明×4ヶ所）　⇒　スイッチは本体
- ウォールラック下部 DC12V ソケット　（最大　１０A）　⇒　メインスイッチ
- ガソリン FF ヒーター　【オプション】　⇒　操作ダイヤルスイッチはサードシート左壁
- AC/DC ｵｰﾄﾏﾁｯｸｻﾌﾞﾊﾞｯﾃﾘｰﾁｬｰｼﾞｬｰ　【オプション】　⇒AC100V 入力時起動　ｽｲｯﾁは本体

☆ 各電装機器のヒューズは、右後部ダウンギャレーうしろのサブバッテリー収納 BOX 内にあります。

(A-1) DC12V ソケットコンセント（シガーソケットタイプ）

☆ゴムキャップを外し、DC12V 機器の専用コンセントを差し込んで取電してください。



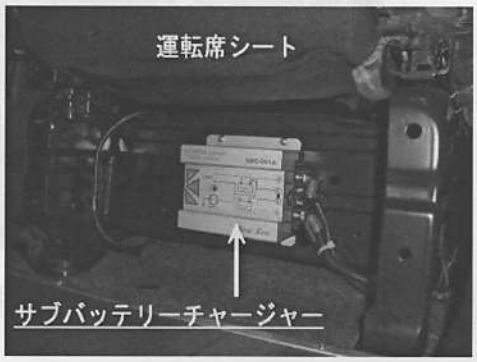
(A-2) サブバッテリー＋走行充電システム

☆設備用サブバッテリーは、ダウンギャレーシステム後部収納庫に納まっています。

(配線図は　P21　をご覧ください)

☆ 設備用サブバッテリー（以下本書ではＳ／Ｂと称します）への充電は、ベース車両のオルタネーターより行います。

充電システムは、運転席シートベース下部に装備されたバッテリーチャージャーにて自動的に行うため、特別な操作は必要ありません。又、Ｓ／Ｂ容量が低下しても、車両エンジンの始動には影響ありません。



☆　サブバッテリーチャージャーの機能・性能につきましては、別紙の取扱説明書を良くお読み下さい。

☆ 設備部分に取付の各種電気機器は全てＳ／Ｂからの取電としてあります。

・・・但し、ドアに連動して点灯するルームランプはベース車輌のバッテリー（以下本書ではＭ／Ｂと称します）を使用していますので、長時間の使用によるＭ／Ｂ上がりにはご注意下さい・・・

☆ オプション品のＦＦヒーターを取り付けた場合、長時間のＦＦヒーター使用に際しましてはＳ／Ｂの容量低下には、ご注意下さい。

⚠ 「警告」⇒急速充電器でのＳ／Ｂ充電は、絶対に行わないで下さい。
Ｓ／Ｂが破損または、著しい場合にはＳ／Ｂが破裂し危険です。

⚠ 「警告」⇒直接Ｓ／Ｂに充電する場合には、充電電流を１５Ａ以下で行ってください。

（A-３）設備の電装配電部について

☆　サブバッテリーは、ダウンギャレー後部マットの下部に設置されています。

サブバッテリー及び配電部

【拡大・詳細】

☆　各電装品に不具合を感じた場合、
DC12V ヒューズブロック
の各ヒューズをご確認ください。

排熱用ベンチレーター×２枚

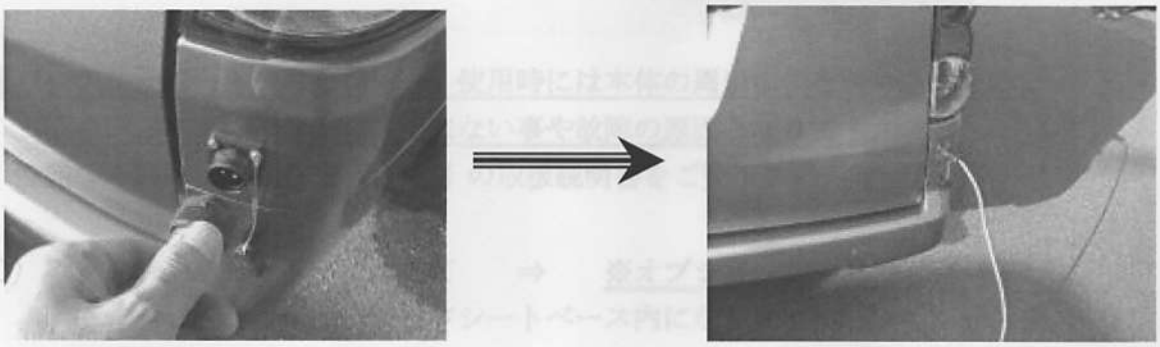
☆設備用機器を使用中、M/B 上がりを防ぐために『ボルテージセキュリティ』が取付けてあります。
この機器は、M/B 電圧が約 11V に低下した場合に、電気供給をカットし、M/B が 12.4V に回復すると電気供給を再開する機能を持った機器です。
したがって、設備機器使用中に突然設備が使用できなくなる事を、お知り置きください。また、電圧回復により、突然使用できるようになる場合もあります。

「注意」⇒Ｓ／Ｂ取付場所に荷物等を詰め込まないで下さい。
Ｓ／Ｂの本来の能力を発揮できない事があります。

(B)　外部１００Ｖ入力コンセントと室内コンセント

☆　付属の AC100V 外部入力コンセントケーブルをボディ右側テールランプ下部にある入力専用コンセントに差し込みます。

☆『外部入力コンセント』のプラグには方向がありますので、確認の上まっすぐに『カチッ』と音がするまで差し込んでください。
取り外すときにはプラグ根元をつまみ、左廻しにしながら引いて下さい。



☆　その時は、『外部入力コンセント』から AC100V が取電できていないと、車内 100V 出力コンセントから AC100V は出力しません。

☆　**使用できる機器は、消費電力合計が２０００Wまでのものです。**
オーバーした時には『外部ＡＣ100Ｖ用ブレーカー(20A)』が切れますので、消費電力を確認の上、ご使用ください。

外部入力 AC100V ブレーカー　位置

AC100V を入力接続した場合でも、ブレーカーのスイッチが『入』時以外は通電しませんので、ご注意ください。

(C) 外部１００Ｖからの充電システム　⇒　※オプション装備品です※

(設置場所は、運転席シートベース下になります)

運転席シートベース

(前側より)

☆『バッテリーオートチャージャー』使用時には本体の周辺に物を詰め込まないで下さい。本来の機能を発揮出来ない事や故障の原因となります。

☆　性能等の詳細は『CH-1212GTD』の取扱説明書をご覧下さい。

(D) ガソリンＦＦヒーターについて　⇒　※オプション装備品です※

(設置場所は、サードシートベース内になります)

☆車輌の燃料タンクより燃料を取り込んで使用するヒーターです。
燃料が少なくなると使用できません。

☆車外より空気を取り入れて燃焼させ、車外に排気しますので車内の空気を汚す事はありませんが、
時々は室内の換気をしながらご使用ください。

☆使用時には操作ダイヤルを操作し、お好みの温度にてご使用ください。

☆操作ダイヤルでスイッチオンしても、すぐには暖気は出ません。(約５分程度の待ち時間を要します)

☆スイッチオフの場合にも、すぐには停止しません。
(約５分程度の掃気時間を要します)

⚠ ☆　作動中は吹き出し口を塞いだり、付近に物を置いて温風の妨げをしないでください。ヒーター本体の故障の原因になります。

⚠ ☆　ヒーター本体取付け部付近には、物を詰め込まないでください。
ヒーター本体の故障の原因になります。

⑤ リヤ座席の取扱いについて

リヤ座席は簡単な操作で、『走行時使用状態』・『休憩時対面状態』・『就寝時のベッド状態』にと、変換作動させる事が出来ます。

(A) 走行時

☆ 後部シートでは、セカンドシートで 2 名が前向きで、サードシートで 1 名が前向きで、安全に乗車移動ができる構造になっています。

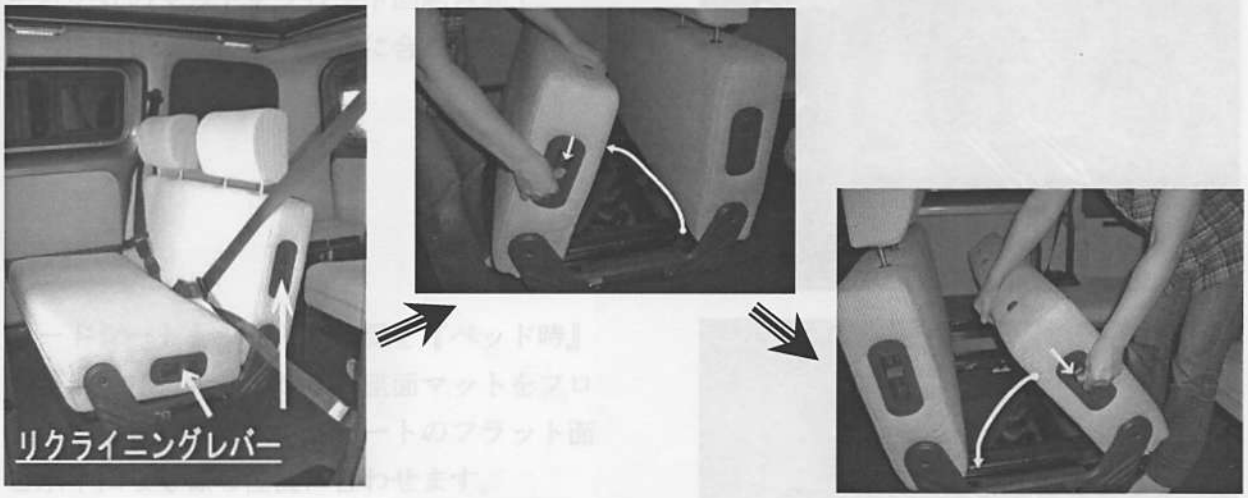
それぞれのシートには、3 点式シートベルトが装備されていますので、移動の際には、**必ず『前向きの走行時使用状態』にて、シートベルトを装着の上**、ご乗車下さい。

【シートを前後にスライドさせたい時操作します】

(B) 休憩時

☆ セカンドシートは**休憩時やキャンプ設備使用時に**、後向き状態に変換する事が出来ます。

座席の座面マット横の『リクライニングレバー』を操作したままマットをお好みの位置まで移動させます。 次に、ヘッドレストを抜き替えて、背面マットも同様の操作により後向き時の座面マット位置に替え、サードシートと対面にしてご利用いただけます。

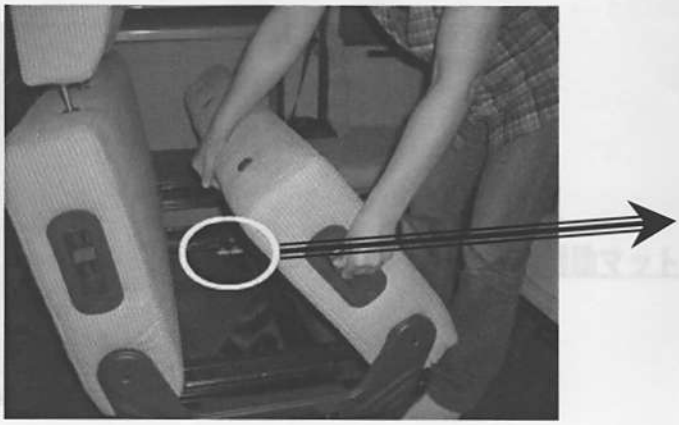


■ **セカンドシート・サードシート各座席、本体前側の足元にある『前後スライド機構』で足元の広さを調整の上、ご利用ください。**

⑥ ベッド展開の手順について

(A) アンダーベッド（一段ベッド）

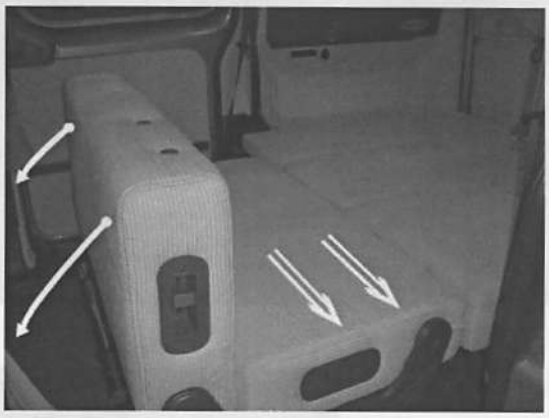
1．セカンドシートの座面マット横のリクライニングレバーを操作しながら座面マットを持ち上げ、前後スライド位置をシートベースに表記されている『ベッド時』の『⇒』に合わせてから、ベッドメイキングを始めます。



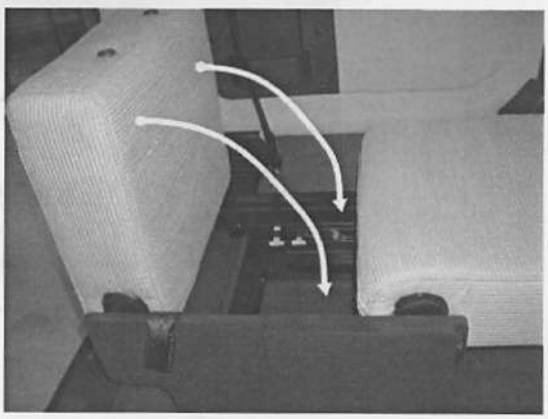
（P18 の『前後スライド機構』操作を参照）

2．セカンドシートベースの左前端にある『横スライドレバー』をスライドさせる方向に回転させ、シート本体を左側にスライドさせます。

3．セカンドシートのヘッドレストを抜き取り、『リクライニングレバー』を操作したままで、それぞれのマットをフロント回転させて、マット面が水平になる位置に合わせます。



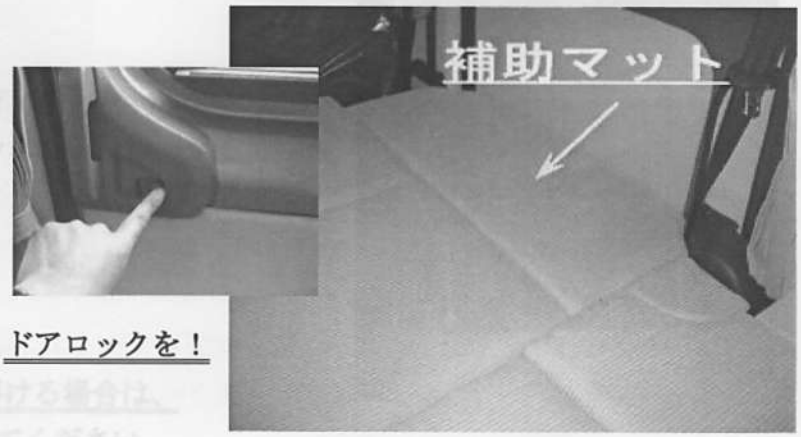
4．サードシートもシートの位置を『ベッド時』の『⇒』に合わせてから、座面マットをフロント回転させ、セカンドシートのフラット面と水平になる様な位置に合わせます。



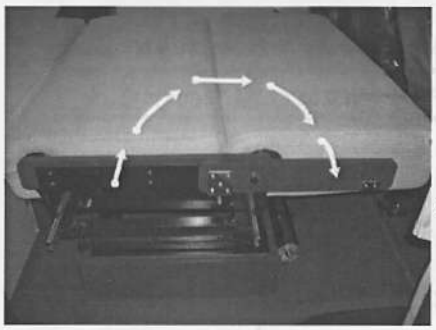
5．ギャレーとサードシート間のスペースは、バックゲートにホールドされている補助マットをその部分にはめ込んで、ベッド面をつくります。
（ダウンギャレーは、現れた状態でも沈み込んだ状態でもベッドメイキングが可能です。）

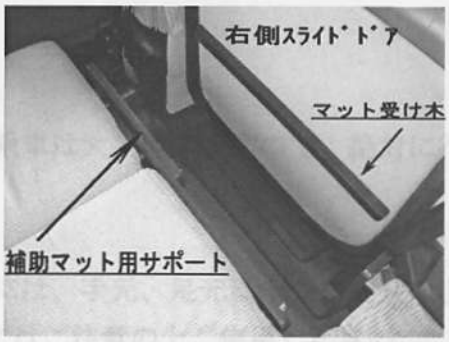
6．セカンドシート右側にある『補助マット用サポート』を展開させ、二段ベッドマット収納部にある『専用補助マット』を、右側スライドドアのマット受けに掛け渡します。

⚠「警告」⇒　補助マットを使用時には、必ず右側スライドドアをロック状態にし、誤ってドアが開かない事を確認の上で、ご使用ください。



ドアロックを！





上から見ると

⚠「警告」⇒走行中はベッド状態での乗車は大変危険ですので、絶対に行わないで下さい。

(B) ルーフベッド（上段ベッド）

☆ ベッドメイクは、4枚のベッドマットを並べてセットします。
（最前部1枚は固定されています。）

「注意」⇒ ルーフベッドは合計１５０ｋｇ以下の荷重にてご使用ください。

1．ルーフベッドはフロント側1枚が固定されていて、
他3枚のマットは移動可能となっていますので、
走行中とルーフベッド使用時以外は、固定マットの
上に重ねておくことが出来ます。

2．ルーフベッドマットは2種類の大きさに分かれています。
固定マットの後ろには、大きい方のマットを敷き、
その後ろ2枚を小さいマットを敷き、1枚を跳ね上げ
た状態にして、その隙間からベッド上にあがります。

3．ベッド上にあがれば、跳ね上げてあったベッドマット
を、隙間にはめ込んで、ルーフベッドは完成です。

ベッドから降りる場合や、片づける場合は、
これまでの手順の逆手順で行ってください。

⚠ 「警告」⇒ 走行中は、ベッド状態での乗車は大変危険ですので、絶対に行わないでください。

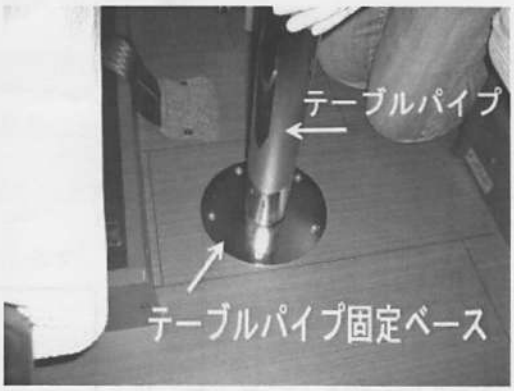
⚠ 「警告」⇒ 上段ベッドに登り降りの際には、手元、足元に十分に注意の上で行動してください。特に子供様の行動にはご注意の上ご使用ください。
思わぬケガ等を招く恐れがございます。

⑦　その他

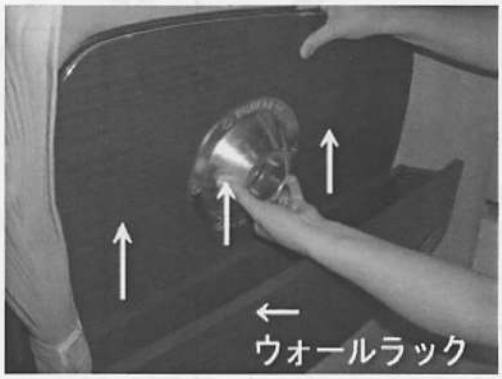
（A）脱着式ダイネットテーブル

【取り外しと収納について】

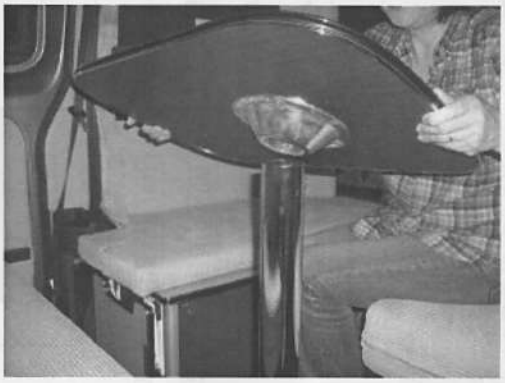
1．セカンドシートベースの前側に、テーブルサポートパイプがあります。



2．テーブルパイプを取付ベースにねじ込み、パイプを固定させます。



3．ウォールラックの奥に収納されたテーブルを、持ち上げる様に抜き取ります。



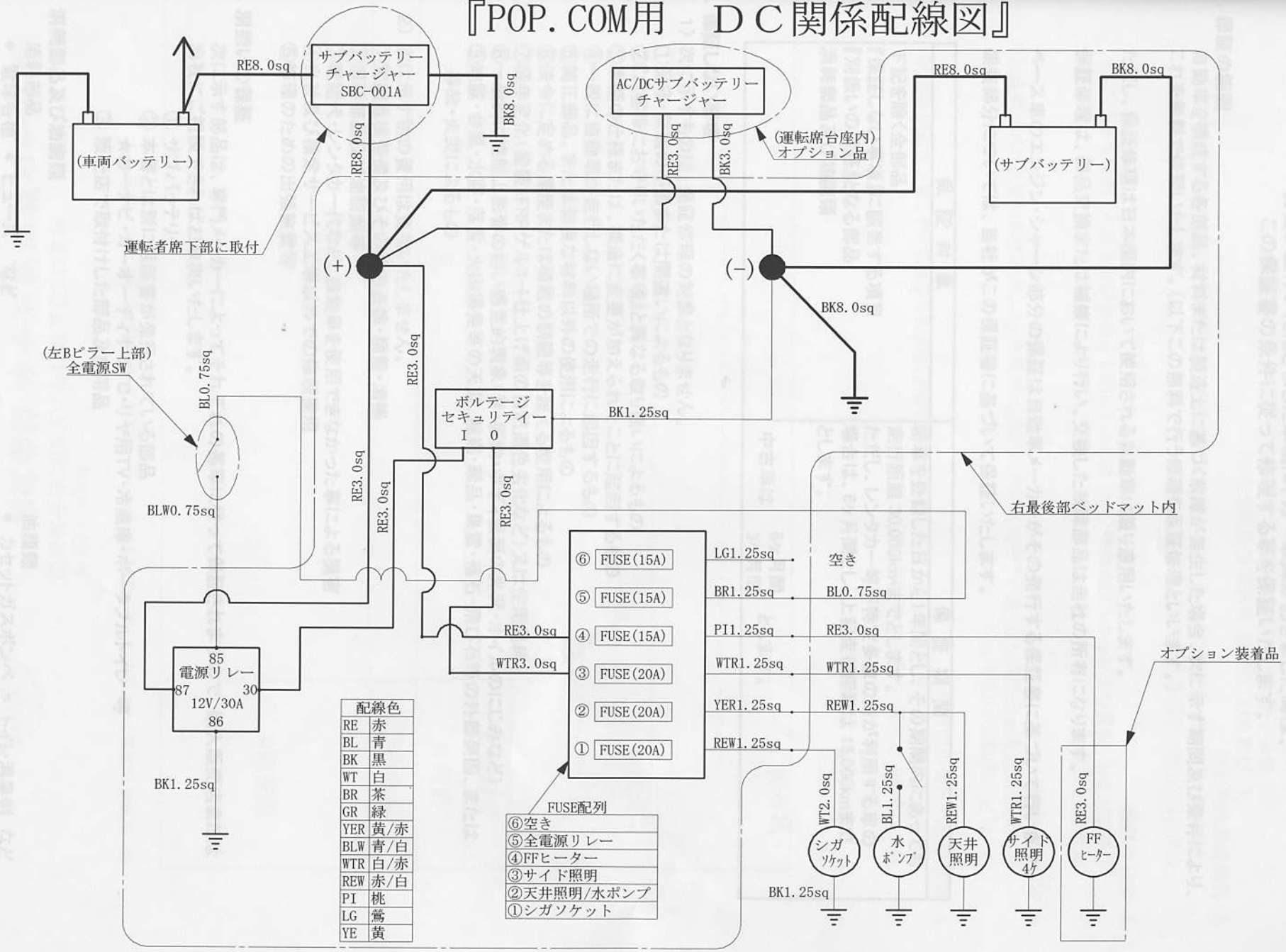
4．テーブルを固定させたテーブルパイプにはめ込み、セット完了となります。

☆　ポップ・コンのテーブルは小型にし、パイプ位置を偏芯の位置に設定しておりますので、シートアレンジにより、テーブルのセット方向を変えてもご利用いただけるようになっています。
取り扱いには充分にご注意をいただきながら、ご利用ください。

「注意」⇒　テーブルは、停車時にご使用ください。走行中の使用は、車の揺れなどで物の散乱が発生したり、思わぬトラブルが発生する場合がございます。

⚠　「警告」⇒　テーブルの許容荷重は１５ｋｇです。
テーブルの上にあがったり、踏み台として使用しないでください。
パイプから抜き取りにくくなるだけではなく、思わぬ怪我を招く場合があります。

『POP.COM用　ＤＣ関係配線図』



保　証　書

お買い上げいただきました車輌に、万一故障がおきました時は、
この保証書の条件に従って修理する事を保証いたします。

1. 保証の範囲

自動車を構成する各部品、材料または製造上に基づく故障が発生した場合、次に示す期間及び条件により、これを無料で修理いたします。（以下この無料で行う修理を保証修理といいます。）

ただし、保証修理は日本国内において使用される自動車に限り適用いたします。

保証修理は、部品交換または補修により行い、交換した故障部品は当社の所有になります。

ベース車のエンジン・シャーシ部分の保証は自動車メーカーがその発行する保証書に基づいて行います。

架装部分については、当社がこの保証書に基づいて保証いたします。

保　証　対　象	保　証　期　間
下記を除く全部品 『保証しない事項』に該当する項目 『別扱いの保証』となる部品 消耗部品及び油脂類	新車を登録した日から1年間とし、その期間内にあっても走行距離 30,000kmまでとします。 ただし、レンタカー等不特定多数の方が利用する車の場合は、6ヶ月間とし、上記走行距離は 15,000kmまでとします。
	中古車は　6ヶ月間 3ヶ月間　とします。

2. 保証しない事項

1）次に示すものは、保証修理の対象となりません。
①保守・整備の不備または間違いによるもの
②『お客様にお守りいただく事項』と異なる取り扱いによるもの
③車輌の仕様または、構造に変更が加えられたことに起因するもの
④一般に自動車が走行しない場所での走行に起因するもの
⑤純正部品、または純良な材料以外の使用によるもの
⑥法令に定める速度または積載の制限等を超える使用によるもの
⑦経年変化（塗装・FRPゲルコート仕上げ面の自然退色劣化など）又は使用損耗
⑧一般的に機能上影響の無い感覚的現象（音・振動・ボディ表面の光沢・オイルのにじみなど）
⑨地震・台風・水害・落雷・火山爆発等の天災、触媒・薬品・鳥糞・落石・飛び石等の外部要因、または事故・火災によるもの

2）次に示す物の費用は負担いたしません。
①定期点検整備及びその他の点検・調整・清掃
②消耗部品及び油脂類等
③電話代・レンタカー代など、自動車を使用できなかった事による損害
④当社及び指定サービス工場以外での修理費用
⑤修理のための出張旅費等

3. 別扱いの保証

次に示す部品は、専門メーカーによってそれぞれの基準に従って保証されますので、購入販売店または当社にご相談下さればお取次いたします。

① サブバッテリー
② 本書とは別に保証書が発行されている部品
★カーナビ・カーオーディオ・ETC・リヤ用TV・冷蔵庫・ポータブルトイレ　等
③ 販売店で取付けした部品及び用品

4. 消耗部品及び油脂類

消耗部品
＊ 電球各種 ＊ ヒューズ　など

油脂類
＊ カセットガスボンベ ＊ トイレ消臭剤　など

※ベース車輌に関しましては、ベース車輌の保証書に基づいた保証内容になります。

5. お客様にお守りいただく事項

キャンピングカーを快適かつ安全にご利用いただくためには、一般の車両と異なるため、日頃から正しい取扱いについて、充分なご理解が大切ですので、次の事をお客様の費用と責任において実施してください。

1）取扱い説明書等に従った正しい使用
2）整備手帳に示す定期点検はじめ各種の点検・整備及び部品交換
3）始業点検（走行前・使用前の点検を含む）

6. 保証修理の受け方

保証に関する修理をお受けになる場合は、自動車と保証書及び整備手帳を、弊社又は購入販売店にお持ちいただき、保証修理をお申し付けください。

7. 保証の発効

この保証書は、お買い上げいただいた販売店が、おクルマに関する必要事項を記入、捺印する事により有効となります。

8. 保証書の継承

保証期間の継承は出来ません。従って保証期間中に車輌の使用者もしくは所有者が変更された場合は、この保証は無効となります。

9. 保証期間経過後の取扱い

この保証書は、本書に明示した期間と条件のもとに無料修理をお約束するものです。従って保証期間経過後に発生した故障・不具合の修理は、有料となります。

■ 新 車

お名前 様	
ご住所	
登録番号	
登録日	年　月　日
車台番号	
販売店名	

※ 使用者が変更となる場合は、個人情報保護法により、この『保証書』を切り取り処分してください。

〒731-0305
広島県安芸高田市八千代町上根277番地
株式会社 キャンピングカー広島
TEL 0826-52-3224　FAX 0826-52-4179
E-mail traveler@basil.ocn.ne.jp
URL : http://cc-hiro.co.jp

「販売店」

「製造元」

Campingcar Builder

(株)キャンピングカー広島

広島県安芸高田市八千代町上根２７７番地

TEL 0826-52-3224　FAX 0826-52-4179

ＵＲＬ　：　http://cc-hiro.co.jp

この取扱説明書は付属品の一つとして車検証等と一緒に大切に保管して下さい。又、車両を譲渡した時には、『保証書』ページを切り離した後本書を次の方の為に車両と一緒に売却先にお渡し下さい。